

富岡町に暮らす人と人、
人と町の話をつなぐ情報誌



TOMIOKA CROSS TALK

VOL.1 富岡第一小学校解体に寄せて
藤田大さん / 押田純治さん /
宇佐神秀和さん / 佐藤有佳里さん

年表 小中学校の歴史

INFORMATION とみおかの地酒
富岡産米使用・オトナのお土産リスト完全版

COVER PHOTO

富あかり 2021 [2021.3.11]

東日本大震災から10年が過ぎたこの日、岡内東児童公園で、竹の灯籠に火を燈し
震災で亡くなられた方への追悼と富岡町の未来へ希望の祈りを捧げました。

TOMIOKA
VOL.1
カケル
トミオカケル

7月の雨の降る肌寒い日に、富岡第一小学校の卒業生4人が集まりました。「ああ、こういう風に壊されちゃうのか……」。今は町外に暮らす4人。感慨深く解体中の小学校を見上げたあと「そこに砂場あったけ」「あそこの水路を使ってドロケイしましたよね?」「二宮金次郎像は、校門の近くにあったんだ」と、すぐに思い出話が始まりました。

仕事も世代も、今暮らす場所もそれぞれ違う人達が、“富岡町”について共に語る特別対談企画。第1回は、学校が解体される音が町に響く2020年夏、この4人が学校の思い出を語り合いました。

藤田さん：大 押田さん：純 宇佐神さん：秀 佐藤さん：有

結構やんちゃな遊びもしていたあの頃

大：小学校の時ってなにで遊んだの？
 秀：鬼ごっことか、サッカーとか。校舎の中ではあんまりやることなかったよね。
 有：校門前に太い幹があって、そこを目掛けて男子はサッカーしてた。誰かがその前に立って、捕るか、当たって泣くか。
 大：俺らの時は野球。野球チーム入ってた子は学年離れても知ってた。あとかなり、危険な遊具もあって、怪我する生徒とかもいて。俺だけ。ここに傷残ってる。
 純：小学校のときの思い出っていえば、ドロケイ。

有：わたしたちも！ドロケイとか追いかけてことか。
 純：用水路、水少ねえとこあんのな。
 有：そこにさ、ときどきお金が落ちてんの。10円とか5円とか。それ持って近くに筒井商店という駄菓子屋があって、そこで買い物してたな。ほんとはだめだったんだけど。今の小学生と違って、帰りに学校の周りで遊んでいちゃいけないじゃないですか、でもわたしたちの時はよかったですよ。
※現在は、全員スクールバス通学になっています

TOMIOKA CROSS TALK

VOL.1 富岡第一小学校解体に寄せて



※文中わかりづらい表現(方言)もありますが、雰囲気を感じていただくためそのまま記載しました。

小学校ならではの淡い思い出

大：小学校でよく覚えてるのは、ドキドキしたのが、小雀音頭。1年生は6年生の女子と踊るの。
 秀：あったあった。
 有：覚えてるよ、わたし秀とくんが付き合ってた人とか。そういうのは覚えてる。誰が好きだったかとか、覚えてるわ。
 秀：よく覚えてるよなあ。おまえのはわかんねえわ。
 有：それこそ、小学校と中学校の間の道を、こう、一緒に帰っている人たちを見て「あいつら付き合いはじめたんだな」って、そういう話をよくしてたな。



第一小学校正面玄関前 [2017年]

給食時間もいい思い出

純：俺らときは、校舎の後ろにあったんですよ。給食室。
 大：あーあったあった！だんだん思い出してきた！職員室の脇から渡り廊下いくと、あったな。
 有：給食も昔は小学校の後ろで作ってたんですか？
 純：作ってたんだよ、昔は。それから大ちゃんのところで給食組合みたいのつくってなあ。それまでは校内に給食のおばちゃんいて、作ってたんだ。
 有：うちらんときは、二小の隣にある給食センターで。
 純：俺らんときはそこで。みんなで手分けし

てな、職員室前から運んで、ぶんまがしたりして。
 全員：(笑)
 有：わたしもこぼしちゃったことある、給食当番で。そういう時は全クラスに放送で「ちょっとずつつけてください」って、こぼしたメニューを少しずつもらってくるの。
 純：そうだそうだ。あそこから運んできたんだもん。いい思い出だな、今になると。あの頃にもどっちな。
 大：全部、笑えるね
 純：純粋なときに。あの頃は純粋だった。ピンク色だったよ、あの頃。
 大：いい時代だったね。

小中学校の歴史

第一小学校の歴史

1955年 富岡小学校から (S.30) 「富岡第一小学校」に校名を変更
 1970年 新校舎が完成 (S.45)

第一中学校の歴史

1955年 富岡中学校から (S.30) 「富岡第一中学校」に校名を変更
 1961年 新校舎が完成 (S.36)

第二小学校の歴史

1955年 双葉小学校から (S.30) 「富岡第二小学校」に校名を変更
 1974年 新校舎が完成 (S.49)

第二中学校の歴史

1955年 双葉中学校から (S.30) 「富岡第二中学校」に校名を変更
 1980年 新校舎が完成 (S.55)
 1982年 体育館完成 (S.57)



桜まつりで賑わう第二中学校 [2019年]

震災・原発事故後の町内の小中学校のあゆみ

2011年 (H.23) 東日本大震災
 2012年 (H.24) 田村郡三春町曙プレーキに富岡第一・第二小学校(三春校)開設
 2015年 (H.27) 三春校に仮設体育館完成
 2018年 (H.31) 富岡第一中学校の校舎を利用して町内で授業再開・屋内プール設置
 2020年 (R.2) 一中の校舎を残して、一小、二小、二中学校舎解体

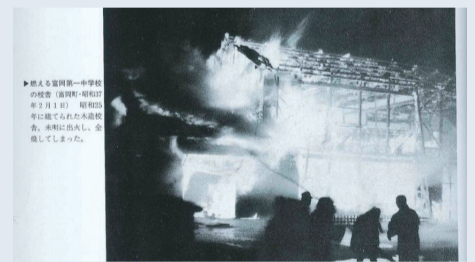
町内の小中学校のこれからについて

2022年4月 三春校閉校予定
 ※第二小学校体育館は学校体育施設として使用を継続予定



一度燃えた旧校舎 今の学校に思うこと

有：戦争の勉強をしたときに、門のところに鉄砲の痕があるって…。
 秀：なんか、言ってたね！
 有：それで、見に行った記憶がある。
 秀：よく覚えてんな、ほんとに。
 有：正門のところの門(石)に、銃弾が入った痕があるとか何とか。だから、その時代から学校があったってことなんですよ、あそこに。
 純：一小は1回燃えてんだよな。昭和30何年だかに。
 大：燃える前の校舎、うちの浜鶏ラーメン屋(さくらモール)の横に「浜鶏物語」って貼ってあるんだけど、そこに写真載せてあんのね。昭和20年代後半とか。そこにね、富岡町の名だたる人たちが写ってる。



燃える一小の校舎(昭和37年2月1日)未明に出火し全焼 [出典：目で見える相馬・双葉の100年 相馬市・原町市・相馬郡・双葉郡より]

有：震災後は、学校にいろんな人が入って、機織りとかやってますよね。地域の人が講師になったりとか可能性は十分ある気がする。わたしはヨガやっているので、あそこの芝生でやったら気持ちいいだろうなって。
 純：浜通りは医療があんまり充実していないんで、がん専門の病院とかを跡地に建てるとかさ。そうすればもっと助かる人がいるんじゃないかなって。この地域の人じゃなくても、治療にきたりな。
 有：大学とかできるのもアリ。
 藤：学校でぎっとね、いいよね。その時に小学校跡地も使ってほしいよね。



昭和20年代後半頃に一小で撮影された写真 [藤田さん提供]

「無くなってしまうと、そこになにがあったかわからなくなってしまふ。小学校も、何もなくなってしまってから、寂しさが押し寄せてくるのかなと感じる」と、佐藤有佳里さん。「校舎が無くなって、6年間の思い出は無くならない。忘れないで、それぞれの場所でごんばって、いこう、という感じかな」藤田大さんは、控えめに話してくれました。

ツツジが描く、次の春

春のやわらかな光と心地よい風を思わせるはじける泡が楽しい



きざし
萌-kizashi-
300ml 622円

東京農工大学が開発協力した米で醸造。米と米こうじのみを使って瓶内発酵させた甘口の純米吟醸スパークリング日本酒。



精米歩合60%/アルコール度数7度
醸造元 人気酒造株式会社



きざしドライ
萌-kizashi-DRY
300ml 706円

萌よりもアルコール度数を上げた日本酒らしさも楽しめる商品。キリッとした辛口の純米吟醸スパークリング日本酒。

精米歩合60%/アルコール度数11度
醸造元 人気酒造株式会社

 <p>萌 3本セット 特別BOX 1,866円</p>	 <p>萌&萌DRY ふたつの萌 SpecialBOX 1,328円</p>
---	---

※上記BOXは、とみおかプラス・及び一部販売店のみでの取扱い

INFORMATION とみおかの地酒

※記載の料金は税込価格です。

その魂、不屈

身体に宿る富岡魂に火をつけ、
何度でも前へ



とみおかだまし
富岡魂【生酒・火入れ】
720ml 2,300円

福島県オリジナル酒造好適米「福乃香」を使用した純米大吟醸酒。スッキリした口当たりで、飽きのこない味わいを楽しめる。

精米歩合50%/アルコール度数16度
醸造元 人気酒造株式会社

※箱別売り100円

富岡の未来を照らす

芯の強さが、希望の象徴に



てんのき
天の希
720ml 1,650円

富岡町産「天のつぶ」を100%使用した純米吟醸酒。酒米ではなく食用米で仕込んだ珍しい酒。女性でも飲みやすい飲み口。

精米歩合55%/アルコール度数16度
醸造元 喜多の華酒造所

※問合せ先：富岡町商工会

萌の開発ストーリー掲載！特設WEBページはこちら↓



WEBでも富岡の地酒を
詳しくご紹介！



発行 一般社団法人
とみおかプラス
TOMIOKA PLUS

「一般社団法人とみおかプラス」は2017年に富岡町のまちづくり会社として設立しました。
富岡のまちづくりに熱い思いをもつあらゆる人々との協働のもと“未来に向けたまちづくり”を主導していきます。